

学校法人樟蔭東学園
樟蔭東女子短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

樟蔭東女子短期大学の概要

設置者	学校法人 樟蔭東学園
理事長名	高橋 努
学長名	高橋 努
ALO	瀧川 光治
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	大阪府東大阪市若江西新町3-1-8

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活学科	生活学専攻	70
生活学科	保育学専攻	50
	合計	120

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

樟蔭東女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 16 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当該短期大学は、昭和 41 年に家政科の短期大学として設立された。その後、家政科から生活学科に学科名称変更、平成 19 年には生活学科に生活学専攻・保育学専攻の 2 専攻を設置し、現在に至っている。

建学の精神にあたる学是は、「謙譲礼節」であり、教育活動全般の基盤として明確に示され、学内外に周知されている。教育課程は、各学科・専攻の教育目的に基づき、教養と専門科目のバランスの取れた編成になっている。

FD 委員会の下に、授業評価や録画による授業公開も実施されており、授業改善に前向きに取り組んでいる。自己点検・評価活動については、小規模校の特色を生かして全教職員が取り組む体制を確立させている。相互評価については、兵庫県の短期大学との間で平成 15 年度より毎年実施されており、意欲的な取り組みが行われている。

専任教員数や校地・校舎の面積は、短期大学設置基準に定める基準を充足している。図書館の蔵書数及び座席数は、在籍学生数に比し適当である。

学生支援体制では、入学前教育の提出課題として「ペン習字入門」を配布し、美しい文字を書くことへの意識を高めるよう指導している。入学後は基礎学力が不足している学生に対しては、「日本語表現法」「生活の数学」などのリメディアル教育、ピアノ等の補習授業を行っている。進路支援は、教職員が一体となって行っているが、専門職への就職拡大に関しては更なる努力を期待する。

教員の研究活動は、「研究論集」が紀要として発行されており、おおむね成果をあげている。科学研究費補助金等は過去 3 ヶ年毎年採択されており、研究費の外部からの調達には実績をあげている。社会的活動では、学科の特色を生かした地域ぐるみの各種行事を企画・開催し、地域社会に貢献している。

学校法人の管理運営、学長のリーダーシップ、教授会ほか各委員会等の運営など、短期大学の運営全般はおおむね適切に執行されている。財務に関しては、学園再建のために資産売却を行い、学園の債務を解消し、財務内容の改善・健全化を図ることにより、引き続き通常の教育活動を行う努力をしている。近年は学生数が定員に満たな

い年が続いており、これを解消するための学生確保が最重要課題となっている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅵ 研究

○ 科学研究費補助金等にも採択されるなど教員の研究活動は活発である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

○ 特色ある取り組みとして「キャンパス保育授業」が、毎週土曜日、学内で行われている。地域の親子が授業に参加するもので、学生と地域の保育力アップを狙っている。学生は、子どもだけでなく親と向き合うことで、保育者には何が求められているのかを知り、学生の実践力向上と具体的なイメージをつかむ機会となっている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

○ 相互評価については、委員会規程を整備し、平成15年度より毎年、兵庫県の短期大学との間で相互評価を行っている。今後も、毎年、相互評価を実施し、互いの改革・改善につなげていくこととしている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

○ 就職率が低下傾向にある。経済状況の悪化という外的な要因はあるものの、企業

の求める能力を持つに至るまでの実学的な教育及び進路指導が必要である。

評価領域Ⅸ 財務

- 資産売却等が行われ、余裕資金はあるものの、短期大学部門及び学校法人全体の収支バランスの改善が望まれる。
- 短期大学全体の入学・収容定員充足率が低いので、充足率を上げるように努力されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

	評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

当該短期大学では、昭和41年の創立以来、建学の精神（学是）として、「謙譲礼節」を掲げている。建学の精神（学是）については、短期大学の校舎の入口に掲示されるとともに、学生必携、入学案内パンフレット及びウェブサイトにも掲載し、内外に明確に示されている。生活学科としての教育目標や二つの専攻ごとの教育目標も明確に示され、その点検は、教員全員が参加する自己点検・第三者評価委員会において確認・点検され、最終的には教授会、理事会で審議されている。学科・専攻の教育目的・教育目標は、学生や教職員が共有するための具体的な施策も講じられている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

建学の精神「謙譲礼節」を体現することにより、学科・専攻の教育目的に基づき、教養と専門科目のバランスの取れた教育課程の編成を目指している。短期大学の専門教育として十分な内容を備え、ふさわしい内容になっている。特に生活学専攻では、コースに縛られない履修科目の選択がかなり自由で、学生自身が学ぶ内容を決定することができる点が特徴といえる。少人数のクラス編成と同時に、全学的にゼミ制度を取り入れており、修学に対する学生への指導・援助がきめ細やかに行われている。学生の授業評価がすべての授業科目で行われている。その結果はすべての科目担当教員に公表し授業の改善に反映させているが、フィードバックなどの課題は残っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織については短期大学設置基準を満たしており、教員もそれぞれの専門領域で研究業績をあげている。短期大学の校地・校舎の面積は、短期大学設置基準を満たしており、教育環境として校舎・校地には問題はない。講義室には、ビデオ、DVD の教育機器が整備されており、授業を行うための機器・備品はおおむね備わっている。図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数及び座席数は、在籍学生数に比し適当である。図書館の運営は職員 1 人で行われているが工夫しながら努力している。全教員が、教務部、学生部、進路指導部、入試広報室に所属し、週 1 回程度の会議を持っている。ゼミ制度を取っているので、専任教員はゼミに所属する学生の担任となっており、細やかな指導が行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

授業の単位認定の方法は、評価基準がシラバスに記載されており、教員の判断により総合的評価が行われている。履修登録などの指導も丁寧に行われている。複数の担当者により行われている授業では、不公平にならないために、担当者間での調整や申し合わせなどの配慮をしている。また、生活学専攻では教育課程に関連した免許・資格の取得を奨励しており、その指導に力を入れている。卒業生の就職先からの評価については、一部企業への面談による聞き取りや保育系では保育ミーティングで卒業生から意見を聴く機会を設けている。課題としては、退学者への対応と免許・資格取得を生かした就職支援に更なる努力が求められる。

評価領域Ⅴ 学生支援

学校案内には、建学の精神、教育目標等が明示され、学生募集要項には、アドミッションポリシー、多様な選抜方法が志願者に分かりやすく記載されている。入学者選抜については、入試判定委員によって公正に実施されている。学生支援のための組織には学生部があり、学生生活全般の支援や指導、学友会への助言等を行っている。学生の健康管理は保健室が担当し、様々な悩みや問題については看護師資格を有する職員、心理学担当の教員がサポートしている。就職・進学への支援は進路指導部が担当しており、適切に活動している。進路資料室には、就職活動用パソコン、ビデオ機材等が設置され、企業の資料、編入学資料等、学生に必要な情報が提供できている。面接対策、就職試験対策等の支援もされている。

評価領域Ⅵ 研究

教員や専門分野による個人差はあるが、教員の研究活動は成果をあげている。科学研究費補助金等の外部研究資金調達は、過去 3 ヶ年ほぼ毎年 1 件ずつ採択されており、実績をあげている。教員には研究費（研究旅費を含む）が予算化され、給与規則に年間の支出限度額が明示されている。研究費は十分とはいえないが、今後、増額を考えている。昭和 42 年創刊の「研究論集」が紀要として発行されており、研究成果を発表

する機会は確保されている。教員の研究室は、原則、個人研究室が割り当てられ、教員の研修日は、「1週1日、自宅及びその他本学以外の場所で授業の準備、研修等を行うことができる」と定めており、十分な時間が確保されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

生涯学習センターを設け、公開講座等の企画・運営や子育て支援活動、留学生の日本語教育、地域との交流や支援を行っている。公開講座は、年に2講座を開講している。地域社会との連携では、東大阪市青少年健全育成事業、東大阪市ふれあい祭りなどで交流を図っている。種々のボランティア活動を通して地域に貢献している。学友会役員は、東大阪市ふれあい祭りの実行委員として参加、アロマセラピーサークルは東大阪市内の高齢者宅を訪問し、アロマセラピートリートメントを行う活動等を行っている。学生が海外の文化に触れる機会として、韓国、ハワイなどの5日間の海外研修旅行を実施している。教職員の国際活動は、授業に支障を来さない限り奨励しており、活発な活動実績をあげている。

評価領域Ⅷ 管理運営

理事会等は、寄附行為に基づき設置され、役員等についても適正に選出され、会議は規定に準拠して開催されている。また、教授会についても樟蔭東女子短期大学学則に基づき構成員が決められ、樟蔭東女子短期大学教授会規程により原則毎月1回開催され、適正に運営されている。短期大学には、各種委員会として監査委員会、将来構想委員会、入試委員会、自己点検・第三者評価委員会、FD委員会等が規程に基づいて設置されている。審議事項等は、委員会等での検討を経て、学長が議長を務める教授会で審議・決定されている。

事務組織は学校法人樟蔭東学園事務組織及び運営規程により短期大学に専任職員が事務部長、部長補佐のほか2人と派遣職員1人が配置され、法人事務部に事務職員が配置され、少人数ではあるが整備されている。業務処理をするための事務室、情報機器、設備・備品等についても適正に配備され、事務決済規程等により円滑に運用されており、管理運営については適正であると評価できる。

評価領域Ⅸ 財務

毎年度の事業計画書及び予算については、評議員会を経て理事会で決定され、経理規程に基づき執行されている。平成14年に実施された文部科学省の現地調査により、「学校法人の経営に関する中長期的な見通しや構想の下に、経営基盤の安定確保に努めること」の指摘があり、以後、毎年改善状況報告書を提出している。短期大学の平成19年度から平成21年度の消費収支は支出超過となっている。また、学校法人全体でみても平成19年度、20年度において支出超過となっている。

このため、平成21年度に資産売却等が行われるなど財務の改善が行われているが、

さらに学生確保のための抜本的な改革が必要である。

評価領域 X 改革・改善

自己評価等委員会規程を整備し、自己点検・第三者評価委員会も組織されている。平成 8 年度より、年度ごとに現状と課題、改善への方策をまとめた独自の様式で自己点検・評価報告書を発行している。平成 18 年度からは、短期大学基準協会の短期大学評価基準に合わせて点検・評価し、過去 3 ヶ年、自己点検・評価報告書を毎年発行しており、自己点検・評価活動の実施体制が確立しているといえる。自己点検・評価活動は、全教職員が関与するよう配慮され、自己点検・評価の成果は、教授会、FD 委員会、自己点検・第三者評価委員会、各部署、コースのミーティングなどで取り上げ検討を行うことで、教育内容、実施体制、学生支援、社会活動の改善に生かしている。相互評価は、平成 15 年度より毎年、兵庫県の短期大学との間で実施しており、大変意欲的に取り組んでいる。